

経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県 秩父広域市町村圏組合

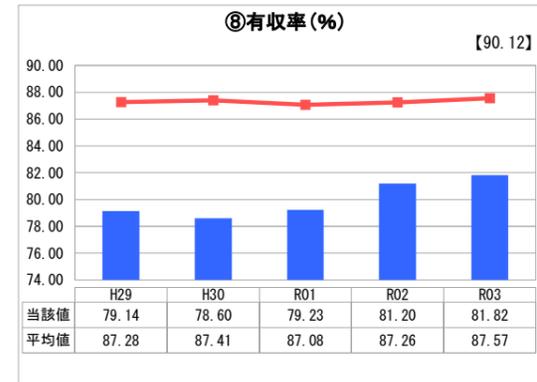
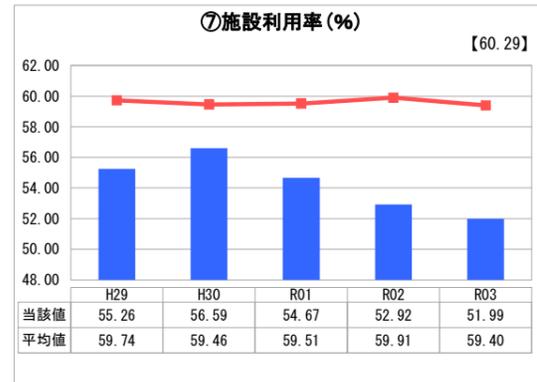
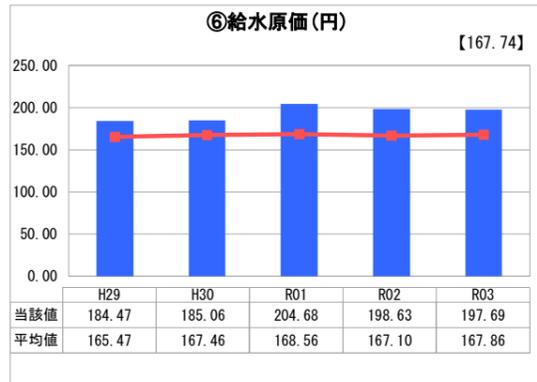
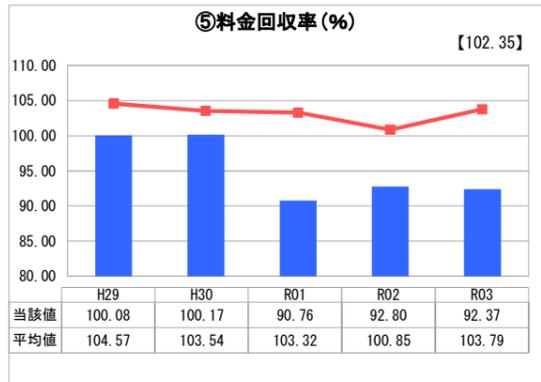
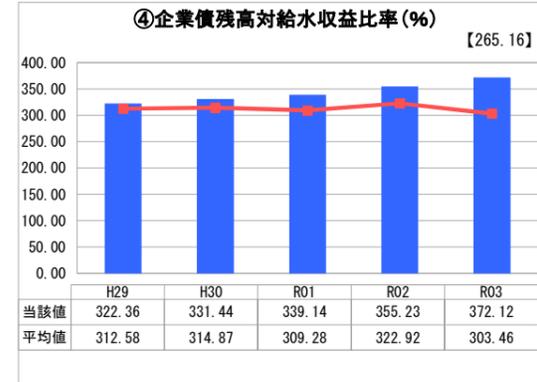
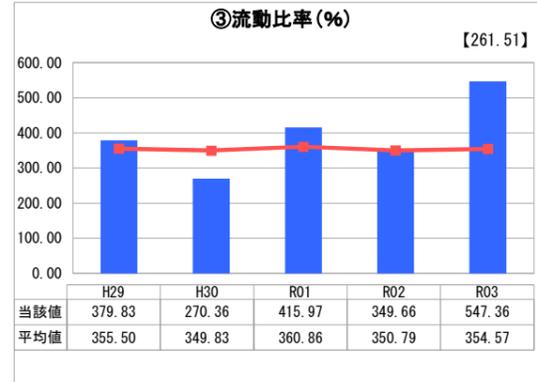
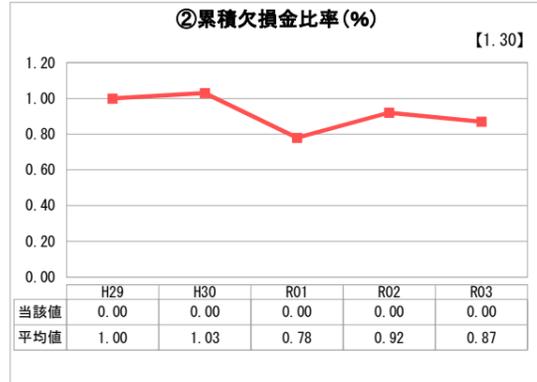
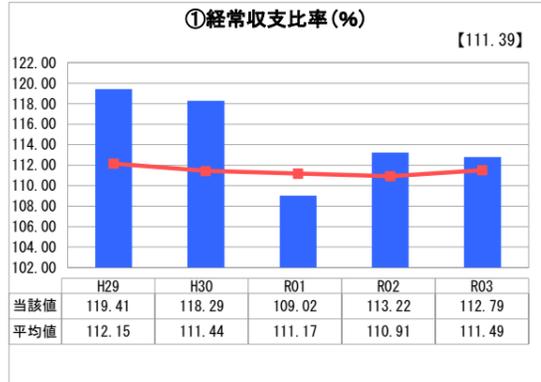
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.67	98.58	3,388	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
93,280	374.26	249.24

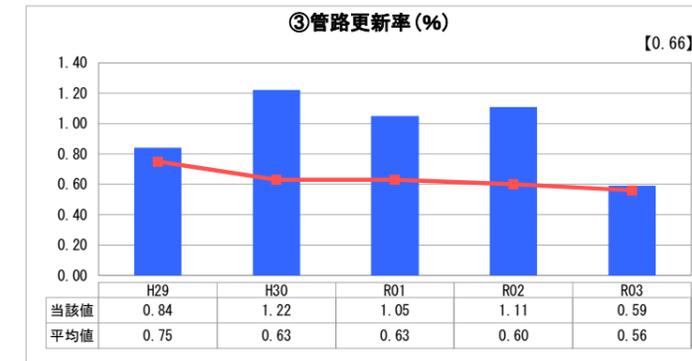
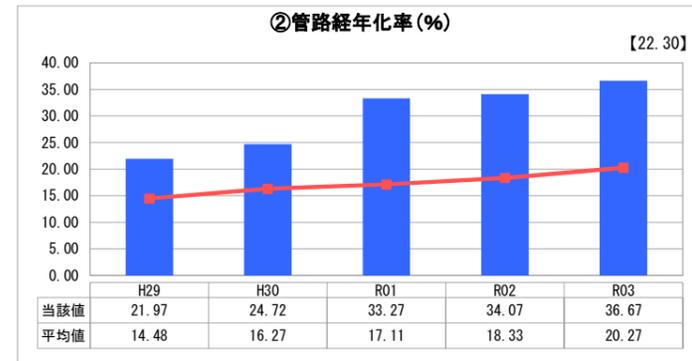
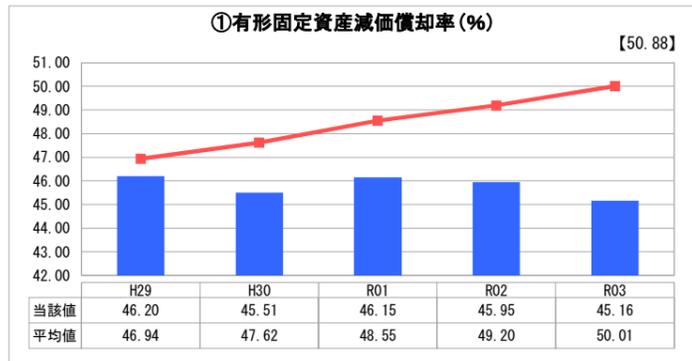
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 累積欠損金比率、⑤ 料金回収率
 料金回収率、経常収支比率は、給水収益の減少に伴い年々低下する傾向にあります。令和3年4月に料金改定を行いました。構成市町線入金により改定率を抑える措置を講じているため、今後も料金回収率の低下が懸念されています。累積欠損金は生じていません。

③ 流動比率
 各年度、一時的な未払金の増減に伴い、数値が変動していますが、例年ほぼ横ばいで推移しており、資金の流動性に問題はありません。今後も将来の見込みを踏まえながら流動資産の確保に努めます。

④ 企業債残高対給水収益比率
 施設の更新ペースを上げていることから起債残高も増加しています。企業債の過剰の依存が経営を圧迫しないよう計画的に施設の更新を進めます。

⑥ 給水原価、⑧ 有収率
 有収率は類似団体を下回っていますが、老朽管の更新ペースを上げることで改善に努めます。給水原価は広域化によるスケールメリットにより減少傾向にありましたが、災害復旧費が発生したR1～3年度は数値が高くなっています。今後の経年化施設の更新事業費の増大と水需要の減少が相まり、上昇していくことが見込まれます。

⑦ 施設利用率
 人口減少に伴う水需要の減少に起因し、施設利用率が低下しています。施設のダウンサイジングにより規模の適正化と経営状況の改善に努めます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年化率
 管路の更新を鋭意進めています。浄水施設等の老朽化も進んでいる状況です。今後も老朽化が進む中、法定耐用年数を超えた漏水の多い管路を重点的に更新していくことで数値の改善を目指します。

③ 管路更新率
 ここ数年1.1%前後を維持していましたが、R3年度は管路以外の更新工事に重点を置いたことで数値が低下しました。投資・財政計画において現実的な更新基準を設定し、優先順位の高い管路から計画的に更新するよう努めます。今後も必要な更新を先送りすることのないよう投資計画を常に見直し、必要な財源確保に努めていきます。

全体総括

平成28年4月から秩父市、横瀬町、皆野・長瀬上下水道組合（皆野町、長瀬町）、小鹿野町の水道事業が統合され、秩父広域市町村圏組合水道事業が開始されました。この広域化による施設の統廃合により、今後多くの経営指標において改善が期待できます。

当組合は大正13年、埼玉県内初の水道として事業開始した施設を所有していることから、老朽化についても県内で最も進んでいる状況です。「持続可能な経営基盤の確保」は全国的な課題となっており、必要な投資と料金改定を先送りすることなく、健全な投資・財政計画のもと事業を進めていきます。

今後も秩父地域が力を合わせ、安心・安全なおいしい水を将来にわたって安定給水していきます。